

ブックウオッチング

街の本屋さん

清風堂書店

(大阪市北区)

大型書店が集中する大阪・梅田のターミナル。人の波が絶えない地下街の一角に「先生のための本屋さん」と壁に書いた店舗がある。1967年の創業時のスタッフだった面屋龍延社長(70)が「教育書に一貫して力を入れてきた」と話すように、日本屈指の教育書コーナーで知られる清風堂書店は大阪の先生たちにとって頼りになる本屋さんだ。

現在のビルに進出した72年当時は約40平方メートルの小さなスペースだったが、今では地下1階(ロ)ミックス、同2階(一般書籍)に各250平方メートルの売り場を持つ。一般書籍フロアの4分の1を占める教育書のコーナーでは、国語、算数など各教科をはじめ、特別支援、指導要領、学校劇脚本、メンタルヘルス、授業づくり、読解力、最新刊、雑誌など細かく分類された約5万冊が書棚に収まっている。

「ターミナルの書店でそんな教

カタログ無料配布、39年目

清風堂書店(大阪市北区曾根崎2の11の16、☎06・6312・3080)。地下鉄谷町線東梅田駅6番出口そば。正月を除き無休。平日は午前10時～午後10時(日祝日は午後8時まで)。毎年春に教育書のカタログ「教育書ブックナビ」を5万部刷り、大阪市などの小中学校職員室に無料配布して今年で39年目を迎えた。



「教科書コーナーは大型店に負けないよう充実させています」。そう語る面屋龍延社長は大阪府書店商業組合理事長でもある

現場と密着教育書が一堂に

育書みたいなもん売って(店が)もつんかい?」と案じる声もあるが、平日の夜や土、日曜はまとめ買いの教師が訪れ、文芸書や文庫に比べて客単価が高いという。特に女性教師が多く、「宝塚みたいでっせ」と社長は目を細める。

「新聞活用最新線」などの書名が見える。書籍以外に全部分度器、くるくるかけ算練習器などをプラスチックケースに収めた「算数教員おためし10点セット」、教材の石灰まで置かれている。

「若い世代が増え、教育書のマーケットは活性化した。90年代まで理屈が多かったのが、最近は板書の方法など、こと細かに書いたものがたくさん」。面屋さんはそう解説しながら、小学校国語用の「板書で見る全単元の授業のすべり」や「デジタル機器を生かした授業実践」など新しい傾向の書籍を示した。

さらに「小学校学校生活マニュアルプリント」「教材研究シートの活用」などの書名をメモしていると、「80年代はベテランが若手

に伝えていたことです」とポツリ。時代とともに変わる職員室の光景が目につかふようだ。

【城島徹、写真も】

単なる書店ではない。82年から教師対象の講座を開いて31年。参加教師らがザラ紙B4判に手書きでプリント教材を作ったのを同書店が製本し、今では全国で市販する。通路側に設けた書棚には「学力UPの決定版!」をうたった同書店が販売元の「習熟プリントシリーズ」がびっしり。「陰山英男先生すいせん!」と宣伝文句のついた「100マス計算」のプリントは人気があるという。

「清風堂書店にお越しのみなさまへ」というポップ(紙の札)が目に入った。平積みの本の前に子どもたちの心をつかむ「板書」と

「話し方」を上冊にまとめました!」と書き込まれている。「これは著者の先生が自分で書いてくれたんですわ」。教育現場との距離の近さがうかがえた。